

令和6年度 岡山県立新見高等学校 学校評価書

校長 安藤 龍太

1 自己評価

(1) 評価結果

別紙「令和6年度 新見高等学校 具体的計画」参照

(2) 分析・改善方策

別紙「令和6年度 新見高等学校 具体的計画」参照

2 学校関係者評価委員名

岩淵 泰 (国立大学法人岡山大学准教授)	田邊 眞 (新見市小学校長会会長)
後藤 秀則 (元学校連携コーディネーター)	忠田 真 (新見市教育委員会教育総務課長)
斎藤 健司 (新見公立大学教授)	西岡 宏 (新見ふれあいセンター長)
昌谷 康司 (学校連携コーディネーター)	西川 康裕 (新見高等学校PTA会長)
田中 康信 (新見商工会議所会頭)	藤野 哲久 (新見市中学校長会会長)

3 学校関係者評価

年度当初に学校経営計画を示した。それをもとに各分掌で今年度の重点項目と具体的な取組を提案し、「令和6年度具体的計画」としてまとめた。各項目の自己評価の結果をまとめた資料をもとに、自己評価の適切さ、改善方法の適切さ、総合評価について評価を求めた。

(1) 「自己評価のプロセス」について

各分掌の重点項目と具体的な取組について総合評価を実施した。職員会議等で各分掌の自己評価等を参考にしながら、各項目の達成状況を総合的に評価した。分掌ごとの自己評価にとどまらず総合的に評価することで具体的計画の達成状況が把握しやすくなり、今後取り組むべき課題が捉えやすくなった。

(2) 「自己評価の適切さ」について

妥当であるという評価であった。

(3) 「改善方策の適切さ」について

妥当であるという評価であった。

(4) 「総合評価」について

妥当であるという評価であった。学校の取組に理解を示していただいた。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

主幹教諭を中心に、学校運営協議会で出された助言や校内からの提言、学校自己評価アンケートの結果をもとに、令和6年度の学校経営計画を見直し、次の方向性で策定していく。

■検討に際する全般的なこと

- (1) 学校経営計画とグランドデザインの整合性をとる。
- (2) 校地統合後の新しい新見高校の学校運営に即しているか検証する。
- (3) 「本校の理念」とスクールミッション、グランドデザインの表現を統一する。
- (4) 「内外の環境分析」が現状に即しているか検証する。
- (5) 「スクール・ミッションの追求を通じて実現しようとする「本校のビジョン」が「本校の理念」と現状に即しているか検証する。
- (6) 「当該年度の具体的な学校経営目標・計画」は、本年度の学校自己評価アンケート集計結果、具体的計画の最終評価を踏まえ、注力すべき点を明確にする。
- (7) こうして策定された学校経営計画をもとに分掌ごとにより具体的な目標・計画を立てる。

■「当該年度の具体的な学校経営目標・計画」令和6年度のものを項目別に検討

- 「1 学科間、学校と地域や家庭の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進」
 - ◆校地統合後の教育活動について、学校自己評価アンケートの肯定的評価の割合は高い。引き続き教育活動や教育環境の改善充実を継続する。
- 「2 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫」
 - ◆学校自己評価アンケートの肯定的評価は高い水準を維持。「一人一台端末」の積極的活用、総合的な学力を高める教科指導、資格取得の推進、わかる授業の実践等を継続する。
- 「3 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成」
 - ◆地域と連携した活動や普通科の主権者教育の取組みは高く評価されている。また、校地統合に合わせて行った学校行事や生徒会活動の見直しについても一定の評価が得られた。今後も諸活動の充実を図る。
- 「4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開」
 - ◆学校の魅力発信について生徒、保護者等の肯定的評価は昨年度よりも向上した。引き続きブログやSNSによる発信、連絡メールの活用、地域等へ向けた積極的広報活動を通して日々の教育活動の発信に努めたい。

■新たな4項目として

今年度の課題と成果を踏まえて、若干の修正を加えた。

<改善案>

- 1 学科間、学校と地域等との連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進
特に学科の特色を生かした教育活動の推進
- 2 知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等を育む教科指導の工夫
特に1人1台端末を積極的に活用したわかる授業の実践
- 3 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成
特に生徒が主体となる校内外の活動の充実
- 4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開
特に充実した高校生活の今が伝わる情報発信